

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200920		
法人名	有限会社 龍泉		
事業所名	グループホーム秀東館 虹		
所在地	山口県岩国市周東町下久原1733		
自己評価作成日	令和 6 年 8 月 12 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現代建築(木造)による高い天井や天窓からの自然な光や風を取り込み、開放感を感じられ、心が和む造りとなっています。現代社会が忘れかけている家族の温かさを大切にして、一つ屋根の下で違った個性を持った人々が集まり共同生活を送る。施設の利用者は私達の父であり母であると思いつける、また利用者同士は兄弟姉妹として生活を共にする。私達が目指す『大家族主義』の理念を基本にして共同生活住居(グループホーム)において食事や排泄、入浴等の介護や日常生活上のお世話をさせて頂く際には、個々の能力に応じ、手を出し過ぎないようにして自立した生活を送って頂けるように取り組んでいます。コロナウイルス感染症も5類へと分類されましたが、引き続き徹底した感染対策した上での面会をして頂く、ご家族と一緒に外出できる等の体制を取りながら、ご家族との関係が途切れないような工夫をしています。地域との関係も維持できるように、運営推進会議を開き運営状況等の紹介をして、意見等を頂きながら今後の施設運営に活かせるように努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3577200920-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 9 月 3 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

熱い屋根の下に開放的な空間のリビングがあり、穏やかに過ごす利用者にぴったりと寄り添い、いつしか勤続年数にも繋がる「傍を楽(働く)にしよう」と意思疎通を阿吽の呼吸として図れだした。そして、日々の様々な甲斐を以って、利用者や誰とでもいつでも語れる環境となり、館長に対してもボトムアップの精神で気楽な関係が備わり、職員にケアを任している姿から窺われる。職員一人ひとりの思いは熱く、和気藹々とおしゃべりをたっぷりと交わしたり、利用者の出来る事を見ていっぱい褒めたり、時には、ボディタッチをして感情表現を底なしに与えたりすることで、スキンシップを深めている。「雰囲気良く、安心できる」と訪問時に利用者の家族から声がかかる。地元との交流も深く、年1回だが地域清掃参加や中学校との交流を大切にしているのも、花見、運動会、敬老会、クリスマス会など当たり前の行事の光輪が、雨(コロナ)上がりの虹の赤橙黄緑青藍紫の彩りを、順序よく大空に描き、影を従いながら、くっきりと重なり合わせていたのも、全員主義の前向きさの現れである。将来は、昔のように利用者の外出をゆっくりと出来て、ゆったりと全員で行い、さらに地域交流へ七色の輪を築いていきたいと語る。明るく大きな声をかけるモットーをキャンパスに描いているレインボーな施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつも自分の家族だったらどうするかを考えて対応することで、事業所の理念『大家族主義』の実践につなげている	理念は玄関フロアと事務所に掲示していて、外部の方にも見える化できている。自分が家族だったらを考えて、支え合っている。代表者も月1回の職員会議に参加していて、理念に沿ったケアに繋がっている。家族の方に、どの職員が対応したかがわかるように顔写真を掲示して、わかりやすくしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で地域住民から虹情報発信を楽しみにしているとの言葉を頂き、毎月発信して施設の運営を知って頂けるように努めている。自治会には加入はしていないが地域の一員として近隣の草刈り等も積極的に参加をしている	開設以来、近隣の中等部との交流があり、行事に合わせてメッセージ入りの絵をプレゼントして頂いている。毎月虹のだよりを発行して、回覧板にて地域住民にも閲覧して頂いている。管理者が地域清掃に参加して、河川掃除や草刈りを行った。散歩時に出会った方と挨拶を交わす関係ができている。	地域交流が活発になるように何か工夫してみてはいかがでしょうか。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への情報発信で介護の一口メモを載せたり、運営推進会議では行った研修の報告をして認知症の支援を理解して頂けるように取り組んでいる			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自分達が行っている支援の振り返りや考え方の見直しができることは理解できていると思う。業務に追われるのが現状にあり、改善に向けて努力はしていると思う	自己評価を行うことで、改めてケアを見直す機会が持てた。コロナ禍で業務に追われている事が多いが、利用者や家族の笑顔に繋がれるように出来る事から少しずつ改善に取り組んでいる。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月毎に代表者から方針の提示をされているので、ユニット会議で説明してその実践状況の評価を行い、運営推進会議にて報告をして意見交換をしている	自治会長、近隣住民、第三者委員、地域包括支援センター、施設代表者、家族、利用者が参加している。新しいメンバーを増やそうと、消防署に足を運んだこともある。利用者状況や行事、研修や事故があった際には報告を行っている。写真付きの虹のだよりが見やすいと好評の声を頂いている。		
6	(5)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービス上で起きた事故等の内容を伝え、助言や指導を受けて協力関係を築けるように取り組んでいる	窓口は管理者が中心となっている。事故の内容の報告や介護保険法の改正時に分からないことがあり、親切丁寧に対応して頂いた。担当者も真摯に答え、連絡や相談がしやすい関係となっている。直近では、協力医療機関連携加算について質問し、書類提出は直接持参する場合もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修をして禁止となる具体的な行為については理解している。身体拘束をしないケアに向けて取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束委員を開催している。拘束に関わりそうな事例を話し合い、拘束が起きないように取り組んでいる。言葉による抑制についても話し合い、どのような言葉かけが適切なのか検討している。スピーチロックについては、細心の注意を払い、職員同士で注意し合う関係作りができています。	委員会を参加型にしてみてもいいでしょうか。また、スピーチロックについて知識を深めてみてはどうでしょうか。
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、虐待防止について学ぶ機会を作っている。職員の精神的ストレスを考え、職員交代する等の工夫をしながら虐待防止に努めている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行い、後見制度について学ぶ機会を作っている。現在1名の方が後見制度を利用されており、後見人には状態の報告をしながら必要な支援が受けられるように協力している		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解し納得した上で契約して頂けるように、疑問や不安な事があれば時間をかけて具体的に説明をしている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受付体制の説明をしている。利用者やご家族と話しやすい関係作りに努めている。意見や要望が出た場合は職員に伝わるように申し送りノートへ記載している	月1回、虹だよりと管理者からの手紙を郵送している。利用者の意見は、普段の会話から聞き取っている。意見の言いにくい利用者へは、表情を観察して意向の確認をしている。理念にもあるように、利用者・職員が家族のように親身に関わっているため、キーパーソンとも話しやすい関係が出来ている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や幹部会議において職員の意見や要望を伝える機会がある	管理者と職員は何でも話せる関係が出来ていて、意見が飛び交っている。内容によっては、施設代表者と話し合うこともある。家庭環境に合わせた勤務体制(子育て支援)となっていて、可能な限り要望に応えるようにしている。些細なことでも申し送りノートに記載して、情報共有をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得等の実績、勤務状況等を一律で評価し給与水準の整備に努めている。育児休業規定も整備され、安心して復帰できる職場環境にある		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修は控えているが、内部研修等で働きながらトレーニングすることを進めている。資格取得の際、受験料は事業所が負担をしている	年間予定を立てて、月1回、内部研修を実施している。月ごとにテーマを決めて、緊急時や感染症予防、虐待防止、認知症基礎、プライバシー配慮の研修を開催していて、ケアの質の向上に取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お花見や運動会等を同系列の施設が合同で行い企画や準備等で協働している。また他施設での救命講習に参加させて頂き、質の向上に取り組んでいる		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔でご本人と向き合うことを基本として、目線の高さを同じにして話をする等、安心感を得られるように努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話やすい関係作りに努め、何に困り悩んでいるのか引き出せるように努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンス等でご本人の状態を知る努力をして必要な支援を見極められるように努めている。状態に応じ、見合った施設を紹介することもある		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活上の仕事(洗濯物たたみや食器洗い等)で家庭での暮らしを思い出して頂き、協働しながら関係を築いている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子や精神状態をご家族に伝えながら、ご家族から話をして頂くこともあり、職員とご家族で情報共有をして、本人を支えていけるように関係を築いている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に携帯電話を使って頂いたり、手紙のやりとりをしている。遠方のご家族とはリモート面会を勧め関係が途切れないように努めている	法人内にある施設と合同で花見や運動会、敬老会やクリスマス会を開催している。定期的に顔を合わせることで今までの馴染みの関係に、新たな馴染みも増え、笑顔があふれる集まりになっている。リビングのソファが馴染みの場所となり、TVを観たり、転寝(うたたね)をしてゆったりと過ごしている姿が窺えた。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性の把握に努め、孤立しないように職員が介入して利用者同士が関われるように努めている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても関係性を大切に、ご本人やご家族の経過をフォローし相談にのっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で普段の生活の様子や身体状態の情報を共有して、本人本位で検討をしている	入浴や散歩時間は、職員と利用者がマンツーマンとなるため、利用者も気安く意向を話せる。利用者に少しでも快適に過ごして頂けるように、聞き取った意向は職員間で共有し、統一したケアを行っている。最初は食事介助を必要としていたが、介助なしで自分で食べれるようになった事例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の聞き取り調査を行い、日々の会話の中からも情報を聞き出せるように取り組んでいる		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕のバイタルチェックで健康状態の確認をしながら、会話から心身状態を探る。手を出し過ぎない支援を心掛けている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回はユニット会議で意見交換をして現状に即した介護計画を作成したり、見直しをしている	入居時に暫定プランを立てて、何もなければ3ヶ月でプランを見直し、介護保険更新時にも見直すようにしている。日常的な変化は、申し送りにて情報共有をしている。介護計画作成担当者がプランを作り、ケアマネジャーが最終チェックを行っている。モニタリングも3ヶ月ごとに見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、特に通常と変化がある場合は記載するようにしている。個人毎に医療ノートを作成して状態確認できるようにしている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療面では主治医と連携をとり、安全に過ごして頂けるように対応している		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、安全に楽しく過ごせるように支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族及び本人が希望されるかかりつけ医に定期的な受診体制ができている。また受診時等では主治医に情報提供を行い適切な医療が受けられるように努めている	入居時にかかりつけ医は選べ、ほとんどの方が協力医に転医している。月1回、協力医の訪問診療がある。歯科や他科受診についても職員が対応し、日常の変化や気づきを医師に直接説明することで、医療との関係性を深めている。ドクターとの関係性も良く、何でも話ができている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	R3.9から看護師を配置している。看護師には変化や気づきを報告し早めの対応を心掛けている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には身体及び心身状態を書面で提供している。ご家族からも情報を頂きながら、病院関係者と連絡を取り合い早期退院できるように取り組んでいる		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態変化があれば、ご家族へどう変わっているか等の報告をして、必要に応じ話し合いを持ち、今後の方向性を決めて支援に取り組んでいる	施設内での看取りは可能だが、ほとんどの方が入院される。入居時に「重度化した場合の対応にかかる指針」や「看取り介護にかかる指針」にて説明し、同意書を交わしている。現在、看取りを希望されている方がいて、ドクターや家族と連携を図っている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	応急手当や急変時の対応等は定期的に研修を行っている。11月に離館が発生し、見守りやマニュアル確認を行った。R3.10には看護師指導による研修を行った	緊急時に備えて定期的な研修を実施している。緊急時への対応マニュアルは事務所に掲示している。離館時に、近隣のガソリンスタンドから連絡があり、地域の協力もみられた。離館の再発予防のため、施設入り口の門扉が設置された。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災避難訓練を行っている。内1回は消防派遣をお願いして、避難の様子の指摘や助言を頂き、職員間で検討している。コロナ感染の状況により地域住民の参加をお願いしている	年2回、昼夜想定で火災訓練を実施。ハザードマップ上では、災害区域ではないが、実際に避難場所まで避難したこともあり、避難経路の注意点も話し合った。連絡網は事務所に掲示している。水、食料品、栄養補助食品を備蓄していて、賞味期限を確認しながら更新している。	備蓄の見直しや連絡網の確認をしてはいいかがでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プラス一言を添えて否定しない声かけの工夫をしている。プライバシー配慮しながら自己選択ができるような対応を心掛けている	呼称は苗字か下の名前に「さん」付けで呼んでいる。認知症を患われていても、年長者であることを忘れず、敬意を持った対応を心掛けている。手が離せず、直ぐに対応ができない時は、利用者に状況を説明し、理解してもらっている。年1回、プライバシーや接遇の研修も実施している。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言動、表情に気を配り、視線を合わす等で思いが伝えやすい関係づくりに努めている			
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合でなく、利用者の動きに合わせることを基本としているが、業務優先傾向にある。今後も認知症研修を行い思いに寄り添えるように努めていきたいと考える			
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変化に伴い衣替えをしたり、好きな服が選べるように支援をしている			
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きやお茶出し等、出来る事を分担して行っている。食事は職員が間に入り、昔の話、好みの食べ物の話等、色んな会話をしながら食べる様子も見て、楽しく安全に食事をしている	本部の管理栄養士が季節に応じた献立を考えている。ユニットごとに調理担当の職員がいて、家庭的な食事を提供している。残食はほとんどなく、季節に応じた食材を提供している。地元の食材が届けば、一品加えて食卓を賑わせる事もある。誕生日には、利用者と一緒にケーキを作ってユニット全体で祝っている。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てたバランスのとれた献立に基づき、個々の能力に合わせて、普通食、刻み食、ミキサー食を提供している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医の指導も得ながら、個々の能力に合わせた口腔ケアを行っている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して事前の声かけを心掛け、できるだけトイレで排泄できるように支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握するため、排泄チェック表を使っている。排便状況も確認して、下剤の調整にも役立っている。現在、布パンツの方が2名おられる。布パンツへ変更が出来そうな利用者から「紙パンツの方が暖かい」と言われ、変更しないで様子をみた事例もある。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給、適度な運動で便秘予防をしている。便秘傾向の方は医師に相談をして緩下剤等で排便につながるように取り組んでいる		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴の曜日は決めているが、希望やタイミングに合わせ対応をしている。個浴でゆっくり時間をかけて対応している	入浴は週2回。ほとんどの方が浴槽に浸かれています。1人30分くらいの時間を設けている。決められた入浴パターンにとらわれず、利用者の状況に合わせて対応している。入浴時間が長く、気持ち良さそうに童謡を口ずさむ方もいる。入浴剤を使用して気分転換を図ることもある。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は離床を心掛けているが、個々の状態により休息も取り入れた対応をしている。夜間はパッド等の見直ししながら安眠できるように支援をしている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の医療ノートを作成しており、状態変化はノートで確認できるようにしている。臨時薬がある場合は併せて申し送りノートに記載し、症状の変化の確認に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせて役割づくりに取り組んでいる。個別に会話したり、散歩して気分転換ができるように支援している	家族や利用者からの情報を基に、本人が活躍できる場面を作っている。餅つきの時には、とても良い表情を見せながら慣れた手つきで餅を丸めていた。できる方には、洗濯物畳みや下膳のお手伝いをして頂いている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出できない月もあったが、出来るだけ近隣を散歩したり、ドライブに出かける等、外出する楽しみを感じて頂けるように支援している	月1回、外出する日を設けている。春はお花見、夏は海、秋は紅葉狩り、冬は初詣や雪だるまを作り手に乗せて季節を味わった。ドライブは継続しており、天神様や商店街、木工品店へ出掛け、ゴミ出しや近隣の散歩もできている。家族同伴の外出は可能で、米寿のお祝いをしたら喜ぶ姿があった。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中でお金を持っていないと不安になられる方もおられ、個人で管理をして頂いている。時には一緒に買い物に行って支払いされることもある		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所持されている方もおられ、充電等を管理して、好きな時に使って頂けるように支援している。手紙を書く機会はあまりないが、届いた手紙はご本人に渡し見て頂いている		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は共有のフロアで過ごされる方が多いが、中には自室でテレビを見たり、雑誌を見る、横になる方もおられます。電気をつけたりエアコンで温度管理しながら、快適に過ごせるような工夫をしている	リビングに天窓もあり、自然の光が降り注いでいる。天井にシーリングファンもあり、空気も循環して快適な室温管理が出来ている。不快な音や匂いもなく、穏やかな空間が漂っていて、整理整頓も職員が気配りを以って整わせている。利用者はソファに腰掛けて、TVを観たり、ティータイムを楽しんでいる姿が窺えた。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のフロアに畳を置いて、新聞を大きく広げて読まれたり、生活リハビリとして洗濯物をたたむ場所として自由に使っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら、使い慣れた家具を置いて頂き、ご自分の部屋と認識して頂けるような工夫をしている	ベッド、エアコン、カーテン、押し入れが備え付けとなっている。自宅で馴染んだものを持ち込み、我が家らしく自由に置くことが出来る。自宅と変わらない生活を送って頂き、テレビや家族の写真、読書をして時の過ぎゆくまに落ち着いて過ごしていた。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアは段差なく安全に移動できる造りとなっている。トイレやお風呂にも手すりがあり、ご本人のできることをして頂きながら、できるだけ自立した生活が送れるように工夫をしている		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24,25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと	
			3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと	
			4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない	
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19,39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31,32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200920		
法人名	有限会社 龍泉		
事業所名	グループホーム秀東館 虹		
所在地	山口県岩国市周東町下久原1733		
自己評価作成日	令和 6 年 8 月 12 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現代建築(木造)による高い天井や天窓からの自然な光や風を取り込み、開放感を感じられ、心が和む造りとなっています。現代社会が忘れかけている家族の温かさを大切にして、一つ屋根の下で違った個性を持った人々が集まり共同生活を送る。施設の利用者は私達の父であり母であると思いつける、また利用者同士は兄弟姉妹として生活を共にする。私達が目指す『大家族主義』の理念を基本にして共同生活住居(グループホーム)において食事や排泄、入浴等の介護や日常生活上のお世話をさせて頂く際には、個々の能力に応じ、手を出し過ぎないようにして自立した生活を送って頂けるように取り組んでいます。コロナウイルス感染症も5類へと分類されましたが、引き続き徹底した感染対策した上での面会をして頂く、ご家族と一緒に外出できる等の体制を取りながら、ご家族との関係が途切れないような工夫をしています。地域との関係も維持できるように、運営推進会議を開き運営状況等の紹介をして、意見等を頂きながら今後の施設運営に活かせるように努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3577200920-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 9 月 3 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

熱い屋根の下に開放的な空間のリビングがあり、穏やかに過ごす利用者にぴったりと寄り添い、いつしか勤続年数にも繋がる「傍を楽(働く)にしよう」と意思疎通を阿吽の呼吸として図れだした。そして、日々の様々な甲斐を以って、利用者や誰とでもいつでも語れる環境となり、館長に対してもボトムアップの精神で気楽な関係が備わり、職員にケアを任している姿から窺われる。職員一人ひとりの思いは熱く、和気藹々とおしゃべりをたっぷりと交わしたり、利用者の出来る事を見ていっぱい褒めたり、時には、ボディタッチをして感情表現を底なしに与えたりすることで、スキンシップを深めている。「雰囲気良く、安心できる」と訪問時に利用者の家族から声がかかる。地元との交流も深く、年1回だが地域清掃参加や中学校との交流を大切にしているのも、花見、運動会、敬老会、クリスマス会など当たり前の行事の光輪が、雨(コロナ)上がりの虹の赤橙黄緑青藍紫の彩りを、順序よく大空に描き、影を従いながら、くっきりと重なり合わせていたのも、全員主義の前向きさの現れである。将来は、昔のように利用者の外出をゆっくりと出来て、ゆったりと全員で行い、さらに地域交流へ七色の輪を築いていきたいと語る。明るく大きな声をかけるモットーをキャンパスに描いているレインボーな施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつも自分の家族だったらどうするかを考えて対応することで、事業所の理念『大家族主義』の実践につなげている	理念は玄関フロアと事務所に掲示していて、外部の方にも見える化できている。自分が家族だったらを考えて、支え合っている。代表者も月1回の職員会議に参加していて、理念に沿ったケアに繋がっている。家族の方に、どの職員が対応したかがわかるように顔写真を掲示して、わかりやすくしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で地域住民から虹情報発信を楽しみにしているとの言葉を頂き、毎月発信して施設の運営を知って頂けるように努めている。自治会には加入はしていないが、地域の一員として近隣の草刈り等も積極的に行っている	開設以来、近隣の中等部との交流があり、行事に合わせてメッセージ入りの絵をプレゼントして頂いている。毎月虹のだよりを発行して、回覧板にて地域住民にも閲覧して頂いている。管理者が地域清掃に参加して、河川掃除や草刈りを行った。散歩時に出会った方と挨拶を交わす関係ができている。	地域交流が活発になるように何か工夫してみてください。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への情報発信で介護の一口メモを載せたり、運営推進会議では行った研修の報告をして認知症の支援を理解して頂けるように取り組んでいる			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自分達が行っている支援の振り返りや考え方の見直しができることは理解できていると思う。できることに目を向けながら改善に向けて努力はしていると思う	自己評価を行うことで、改めてケアを見直す機会が持てた。コロナ禍で業務に追われている事が多いが、利用者や家族の笑顔に繋がれるように出来る事から少しずつ改善に取り組んでいる。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	代表者から月毎の方針の提示をされているので、職員に説明してその実践状況の評価を行い、運営推進会議にて報告をして意見交換をしている	自治会長、近隣住民、第三者委員、地域包括支援センター、施設代表者、家族、利用者が参加している。新しいメンバーを増やそうと、消防署に足を運んだこともある。利用者状況や行事、研修や事故があった際には報告を行っている。写真付きの虹のだよりが見やすいと好評の声を頂いている。		
6	(5)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービス上で起きた事故等の内容を伝え、助言や指導を受けている。運営上の不明点を相談・確認する等で協力関係を築けるように取り組んでいる	窓口は管理者が中心となっている。事故の内容の報告や介護保険法の改正時に分からないことがあり、親切丁寧に対応して頂いた。担当者も真摯に答え、連絡や相談がしやすい関係となっている。直近では、協力医療機関連携加算について質問し、書類提出は直接持参する場合もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修をして禁止となる具体的な行為については理解している。身体拘束をしないケアに向けて特に言葉の拘束を止めるように取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束委員会を開催している。拘束に関わりそうな事例を話し合い、拘束が起きないように取り組んでいる。言葉による抑制についても話し合い、どのような言葉かけが適切なのか検討している。スピーチロックについては、細心の注意を払い、職員同士で注意し合う関係作りができています。	委員会を参加型にしてみてもいいでしょうか。また、スピーチロックについて知識を深めてみてはどうでしょうか。
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を立ち上げ定期的に意見交換しながら虐待防止について話し合う機会を作っている。会の記録は全職員が確認してもらっている。研修を行いながら、職員の精神的ストレスを考え、職員を交代する等の工夫をしながら虐待防止に努めている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行い、後見制度について学ぶ機会を作っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解し納得した上で契約して頂けるように、疑問や不安な事があれば時間をかけて具体的に説明をしている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受付体制の説明をしている。利用者やご家族と話しやすい関係作りに努めている。意見や要望が出た場合は職員に伝わるように申し送りノートへ記載している	月1回、虹だよりと管理者からの手紙を郵送している。利用者の意見は、普段の会話から聞き取っている。意見の言いにくい利用者へは、表情を観察して意向の確認をしている。理念にもあるように、利用者・職員が家族のように親身に関わっているため、キーパーソンとも話しやすい関係が出来ている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や幹部会議において職員の意見や要望を伝える機会がある	管理者と職員は何でも話せる関係が出来ていて、意見が飛び交っている。内容によっては、施設代表者と話し合うこともある。家庭環境に合わせた勤務体制(子育て支援)となっていて、可能な限り要望に応えるようにしている。些細なことでも申し送りノートに記載して、情報共有をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得等の実績、勤務状況等を一律で評価し給与水準の整備に努めている。育児休業規定も整備され、安心して復帰できる職場環境にある		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未だコロナ禍ウィルス感染症の影響で外部研修は控えているが、内部研修等で働きながらトレーニングすることを進めている。尚資格取得の際、受験料を事業所が負担する等を行っている	年間予定を立てて、月1回、内部研修を実施している。月ごとにテーマを決めて、緊急時や感染症予防、虐待防止、認知症基礎、プライバシー配慮の研修を開催していて、ケアの質の向上に取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お花見や運動会等を同系列の施設が合同で行い企画や準備等で協働している。他施設の動き等を知ることによって振り返りも行いながら質の向上に取り組んでいる		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔でご本人と向き合うことを基本として、目線の高さを同じにして話をする等、安心感を得られるように努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話やすい関係作りに努め、何に困り悩んでいるのか引き出せるように努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンス等でご本人の状態を知る努力をして必要な支援を見極められるように努めている。状態に応じ、見合った施設を紹介することもある		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活上の仕事(洗濯物たたみや掃除・食器洗い等)で家庭での暮らしを思い出して頂き、協働しながら関係を築いている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子や精神状態をご家族に伝えながら、ご家族から話をして頂くこともあり、職員とご家族で情報共有をしながら、本人を支えていけるように関係を築いている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に携帯電話を使って頂いたり、手紙のやりとりをしている。遠方のご家族とはリモート面会を勧め関係が途切れないように努めている	法人内にある施設と合同で花見や運動会、敬老会やクリスマス会を開催している。定期的に顔を合わせることで今までの馴染みの関係に、新たな馴染みも増え、笑顔があふれる集まりになっている。リビングのソファが馴染みの場所となり、TVを観たり、転寝(うたたね)をしてゆったりと過ごしている姿が窺えた。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性の把握に努め、孤立しないように職員が介入して利用者同士が関われるように努めている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても関係性を大切に、ご本人やご家族の経過をフォローし相談にのっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で普段の生活の様子や身体状態の情報を共有して、本人本位で検討をしている	入浴や散歩時間は、職員と利用者がマンツーマンとなるため、利用者も気安く意向を話せる。利用者に少しでも快適に過ごして頂けるように、聞き取った意向は職員間で共有し、統一したケアを行っている。最初は食事介助を必要としていたが、介助なしで自分で食べれるようになった事例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の聞き取り調査を行いながら、日々の会話の中からも情報を引き出せるように取り組んでいる		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕のバイタルチェックで健康状態の確認をしながら、会話や動きから心身状態も探りつつ手を出し過ぎない支援を心掛けている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回はユニット会議で意見交換をして、現状に即した介護計画を作成できるように見直しをしている	入居時に暫定プランを立てて、何もなければ3ヶ月でプランを見直し、介護保険更新時にも見直すようにしている。日常的な変化は、申し送りにて情報共有をしている。介護計画作成担当者がプランを作り、ケアマネジャーが最終チェックを行っている。モニタリングも3ヶ月ごとに見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、特に通常と変化がある場合は記載するようにしている。個人毎に医療ノートを作成して健康状態の確認ができるようにしている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療面では主治医とFAXや電話で情報を共有しながら、安全に過ごして頂けるように対応している。またご家族とも都度状態について報告して方向性の検討をしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、安全に楽しく過ごせるように支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族及び本人が希望されるかかりつけ医に定期的な受診体制ができている。また受診時等では主治医に情報提供を行い適切な医療が受けられるように努めている	入居時にかかりつけ医は選べ、ほとんどの方が協力医に転医している。月1回、協力医の訪問診療がある。歯科や他科受診についても職員が対応し、日常の変化や気づきを医師に直接説明することで、医療との関係性を深めている。ドクターとの関係性も良く、何でも話ができている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はないが、協力医療機関等の意見も参考にして、ご家族と話し合い、意向を尊重して考えながら随時対応をしている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には身体及び心身状態を書面で提供している。ご家族からも情報を頂きながら、病院関係者と連絡を取り合い早期退院できるように取り組んでいる		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態変化があれば、ご家族へどう変わっているか等の報告をして、必要に応じ話し合いを持ち、今後の方向性を決めて支援に取り組んでいる	施設内での看取りは可能だが、ほとんどの方が入院される。入居時に「重度化した場合の対応にかかる指針」や「看取り介護にかかる指針」にて説明し、同意書を交わしている。現在、看取りを希望されている方がいて、ドクターや家族と連携を図っている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	応急手当や急変時の対応等は定期的に研修を行っている。必要に応じ、ユニット内で対応方法について話し合いながら支援をしている	緊急時に備えて定期的な研修を実施している。緊急時への対応マニュアルは事務所に掲示している。離館時に、近隣のガソリンスタンドから連絡があり、地域の協力もみられた。離館の再発予防のため、施設入り口の門扉が設置された。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災避難訓練を行っている。内1回は消防派遣をお願いして、避難の様子の指摘や助言を頂き、職員間で検討している。コロナ感染の状況により地域住民の参加をお願いしている	年2回、昼夜想定で火災訓練を実施。ハザードマップ上では、災害区域ではないが、実際に避難場所まで避難したこともあり、避難経路の注意点も話し合った。連絡網は事務所に掲示している。水、食料品、栄養補助食品を備蓄していて、賞味期限を確認しながら更新している。	備蓄の見直しや連絡網の確認をしてはいいかがでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プラス一言を添えて否定しない声かけの工夫をしている。プライバシー配慮しながら自己選択ができるような対応を心掛けている	呼称は苗字か下の名前に「さん」付けで呼んでいる。認知症を患われていても、年長者であることを忘れず、敬意を持った対応を心掛けている。手が離せず、直ぐに対応ができない時は、利用者に状況を説明し、理解してもらっている。年1回、プライバシーや接遇の研修も実施している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言動、表情に気を配り、視線を合わす等で思いが伝えやすい関係づくりに努めている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合でなく、利用者の動きに合わせることを基本としているが、業務優先傾向にある。今後も認知症研修を行い思いに寄り添えるように努めていきたいと考える		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変化に伴いご家族の協力を頂きながら衣替えをしている。季節に合った清潔感のある服装を心掛けている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きやお茶出し等、出来る事を分担して行っている。食事は職員が間に入り、昔の話、好みの食べ物の話等、色んな会話をしながら食べる様子も見て、楽しく安全に食事をしている	本部の管理栄養士が季節に応じた献立を考えている。ユニットごとに調理担当の職員がいて、家庭的な食事を提供している。残食はほとんどなく、季節に応じた食材を提供している。地元の食材が届けば、一品加えて食卓を賑わせる事もある。誕生日には、利用者と一緒にケーキを作ってユニット全体で祝っている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てたバランスのとれた献立に基づき、個々の能力に合わせて、普通食、刻み食、ミキサー食を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医の指導も得ながら、個々の能力に合わせた口腔ケアを行っている。今年度より年2回の職員に向けた歯科指導の場を設けている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して事前の声かけを心掛け、できるだけトイレで排泄できるように支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握するため、排泄チェック表を使っている。排便状況も確認して、下剤の調整にも役立っている。現在、布パンツの方が2名おられる。布パンツへ変更が出来るような利用者から「紙パンツの方が暖かい」と言われ、変更しないで様子をみた事例もある。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給、適度な運動で便秘予防をしている。便秘傾向の方は医師に相談をして緩下剤等で排便につながるように取り組んでいる		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴の曜日は決めているが、希望やタイミングに合わせ対応をしている。個浴でゆっくり時間をかけて個別対応している	入浴は週2回。ほとんどの方が浴槽に浸かれています、1人30分くらいの時間を設けている。決められた入浴パターンにとらわれず、利用者の状況に合わせて対応している。入浴時間が長く、気持ち良さそうに童謡を口ずさむ方もいる。入浴剤を使用して気分転換を図ることもある。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は離床を心掛けているが、個々の状態により休息も取り入れた対応をしている。夜間はパッド等の見直ししながら安眠できるように支援をしている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の医療ノートを作成しており、状態変化はノートで確認できるようにしている。臨時薬がある場合は併せて申し送りノートに記載し、症状の変化の確認に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせて役割づくりに取り組んでいる。個別に会話したり、散歩して気分転換ができるように支援している	家族や利用者からの情報を基に、本人が活躍できる場面を作っている。餅つきの時には、とても良い表情を見せながら慣れた手つきで餅を丸めていた。できる方には、洗濯物畳みや下膳のお手伝いをして頂いている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設では全利用者に対して季節に合った場所への月1回の外出支援をしています。ご家族との外出も可能となり、一緒に食事や買い物、墓参り等をされ楽しんでもらえると感じる。車イスも施設の物を使って頂き、使い方は出かける前にお伝えしている	月1回、外出する日を設けている。春はお花見、夏は海、秋は紅葉狩り、冬は初詣や雪だるまを作り手に乗せて季節を味わった。ドライブは継続しており、天神様や商店街、木工品店へ出掛け、ゴミ出しや近隣の散歩もできている。家族同伴の外出は可能で、米寿のお祝いをしたら喜ぶ姿があった。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中でお金を持っていないと不安になられる方もおられ、個人で管理をして頂いている。時には一緒に買い物に行き、支払いされることもある		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所持されている方もおられ、充電等を管理して、好きな時に使って頂けるように支援している。手紙を書く機会はあまりないが、届いた手紙はご本人に渡し見て頂いている		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は共有のフロアで過ごされる方が多いが、中には自室でテレビを見たり、雑誌を見る、横になる方もおられます。電気をつけたりエアコンで温度管理しながら、快適に過ごせるような工夫をしている	リビングに天窓もあり、自然の光が降り注いでいる。天井にシーリングファンもあり、空気も循環して快適な室温管理が出来ている。不快な音や匂いもなく、穏やかな空間が漂っていて、整理整頓も職員が気配りを以って整わしている。利用者はソファに腰掛けて、TVを観たり、ティータイムを楽しんでいる姿が窺えた。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のフロアに畳を置いて、新聞を大きく広げて読まれたり、生活リハビリとして洗濯物をたたむ場所として自由に使っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら、使い慣れた家具や写真を置いて頂き、ご自分の部屋と認識して頂けるような工夫をしている	ベッド、エアコン、カーテン、押し入れが備え付けとなっている。自宅で馴染んだものを持ち込み、我が家らしく自由に置くことが出来る。自宅と変わらない生活を送って頂き、テレビや家族の写真、読書をして時の過ぎゆくまに落ち着いて過ごしていた。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアは段差なく安全に移動できる造りとなっている。トイレやお風呂にも手すりがあり、ご本人のできることをして頂きながら、できるだけ自立した生活が送れるように工夫をしている		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24,25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19,39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31,32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				